

## 寅さん歩 その 13

### お江戸の閻魔大王-3

(新馬場～雑色)



平野 武宏

お江戸の閻魔大王には「寅さん歩 その 11 江戸・東京の祭-28 (江戸らしい祭-12) 閻魔まつりで7ヶ所訪問しましたが、お江戸の閻魔大王はなんと44ヶ所もあるとのこと。2012年寅次郎がお江戸に移り住み、入会した東京都ウォーキング協会(以降TWA)では8回に分け、2年間かけて歩いて巡る予定と知り、「寅さん歩」の新たなテーマとして取り組みます。今回はその3です。

閻魔大王にはご開帳の時(1月・7月)にしか、ご尊顔を拝見することが出来ませんが、当日はTWAが寺院に特別にお願いして、お会いすることが出来るそうです。

平成28年(2016年)7月10日品川区・大田区の6ヶ所の閻魔大王を訪問しました。(累計20ヶ所、内1ヶ所は奪衣婆のみ)説明内容の一部は当日の配布資料も参照しています。最寄り駅は代表例です。

#### [恭敬山 長徳寺]

品川区南品川2-8-16

最寄り駅 京浜急行線 新馬場駅

品川宿 旧東海道沿いにある時宗のお寺。本堂(写真下右)脇にある閻魔堂(写真下左)に鎮座。



像高 88 c m の木造閻魔王坐像。  
両脇に十王、奪衣婆の小像あり。  
寺は室町時代 寛正 4 年(1463 年)  
現在の東海寺の地に創建。東海寺  
建立に伴い、当地に移転とのこと。  
「南品川のおえんまさま」と信仰  
され、正月と 7 月 16 日は地獄の釜  
の蓋が開く日と言われ、参詣人で  
賑わったそうです。



## 〔天林山 泊船寺〕

品川区東大井 4-5-2 最寄駅 京浜急行線 鮫洲駅

第一京浜とくらやみ坂（旧仙台坂）の角にある臨済宗のお寺。  
室町時代 永徳 2 年（1382 年）に開かれたそうです。  
江戸時代初期 1680 年代に住職が俳人松尾芭蕉と親交が深く、境内  
に牛耕庵（泊船堂、芭蕉堂）を建て、芭蕉を迎えたと伝わる、芭  
蕉ゆかりの寺です。芭蕉の句碑（下右）がありました。  
芭蕉の没後も、多くの俳人が集まり句会が開かれたそうです。  
残念ながら、1m 弱の閻魔王は本堂奥におられるそうで、非公開  
でお会いできませんでした。



## 〔高祥山 嶺雲寺〕

品川区東大井 2-15-10  
最寄駅 京浜急行線 立会川駅

江戸時代 慶長9年（1604年）創建。旧東海道沿いにある曹洞宗のお寺。本堂右にある閻魔堂（写真下右）の扉は7月10日、閉まっていた



ご開帳の7月16日に再度訪問しました。扉は開いていましたが、下から格子越しにしか見られず、離れて格子の間から閻魔大王を覗きました。1mほどの石像で表相がメルヘン調ののどかな顔とのこと。右脇にあるという石像の奪衣婆の写真は撮れませんでした。



## [八幡山 蜜巖院 祈念寺]

大田区大森北 3-5-4

最寄駅 京浜急行線 大森海岸駅

大森海岸駅・磐井神社を過ぎ、次の道を右折した先にある真言宗智山派のお寺。室町時代 文安5年（1448年）に創建。磐井神社の別当寺とのこと。近くの鈴ヶ森の刑場で、火あぶりで処刑された「八百屋お七」の霊を慰めるために造立されたと伝わる地蔵菩薩（俗称 お七地蔵）があるとのこと。山門（写真下左）を入ると、両手に千羽鶴をかけ、よく見ると千羽鶴の下は振袖姿のお地蔵様がありました。



閻魔大王は本堂（写真下左）の2階、ご本尊の隣に鎮座していました。



## 〔慈眼山 無量院 萬福寺〕

大田区南馬込 1-49-1 最寄駅 浅草線 馬込駅

鎌倉時代 建久年間（1190年～1199年）大井村丸山の地に密教寺院として創建され、開祖は梶原平三景時と伝えられています。火災にあい、第6代梶原掃部景嗣が居城と共に、馬込へ移転したとのこと。室町時代 天文3年（1534年）鎌倉の禅僧が曹洞宗に改宗しています。

茅葺屋根の山門手前には名馬「するすみ」の像がありました。説明板には『開祖梶原景時と息子景季は源平の合戦で数々の武勲を上げ、源頼朝は自分の名馬「するすみ」を景季に恩賞として与えました。馬込一帯は馬の放牧が盛んで、「するすみ」も馬込の産と言われ、生地（南馬込3丁目臼田坂上）に祀られています。この像は昭和61年、当山創建800年を記念して供養のため、梶原家ゆかりの地の当山に建立した』と記載。



閻魔大王は山門を入り、右手の閻魔堂に鎮座していますが、ガラスに囲まれ光が反射した写真になってしまいました。



## [医王山 安養寺]

大田区西六郷 2-33-10 最寄駅 京浜急行線 雑色駅

神奈川県との境を流れる多摩川のすぐ脇にある真言宗智山派のお寺 古川薬師安養寺。門前には「古川薬師道」道標がありました。説明板には「正面には薬師如来を表す種字を刻み、その下や左右側面の三面にも古川薬師への道を示している。江戸時代 延宝2年(1674年)東海道から多摩川道に入る分岐点に江戸の有志の寄進により建てられたが、のち古川薬師を祀る安養寺の門前に移された。古川薬師は古来信仰を集め、江戸時代には江戸近郊の行楽地になっていた。区内に残る一基であり、江戸時代の交通史上、貴重である」と記載。



閻魔大王は正面の本堂内奥に鎮座していました。

今回は閻魔大王のお姿を近くで見られず、写真も上手に撮れていないのが多かったです。

新馬場駅から雑色駅まで通して歩くと、約18kmでした。

次のお江戸閻魔大王めぐり-4は10月です。しばらくお待ちください。

## [季節の風物詩]

東京のお盆は7月、お盆の前には「七夕まつり」があります。

7月8日浅草かっぱ橋通りを歩いていたら、「下町七夕まつり」が開催されていました。七夕飾りの先には天の川ならぬ東京スカイツリーがありました。



次回は東京に *こんなところ-3* です。

平野 寅次郎 拝